

テックドクターによる現地診断 (大分県臼杵市野津町)

- ・道路防災カルテ点検における要対策箇所、かつ変状進展が著しい箇所を対象とし、点検結果や発生機構についてテックドクターに確認頂くと共に現地診断して頂き、今後の対応について意見を伺った。
- ・開催日: 令和7年3月4日(現地診断)、3月5日(道路防災検討会)
- ・参加者: TEC-Doctor(福岡大学 佐藤教授、大分大学 鶴成教授、佐伯河川国道事務所、竹田維持出張所)

● テックドクターによる現地診断・検討会



【TEC-Doctorの見解】

＜発生機構について＞

- ・地山は脆弱な崖錐堆積物であり、下部斜面に植生やクレープ地形もみられることから、基礎地盤として盤石ではない。
- ・空石積み擁壁下部の露岩部は洗堀も進んでおり、道路排水の他、背後地からの地下水も変状の要因に挙げられる。
- ・擁壁には目視で確認できるもの以外にも局部的な空洞がある可能性があり、対策は空洞分布も考慮する必要がある。

＜対策工について＞

- ・豊水期までの短期間で実施できることを切り分ける。道路排水の切回し、土嚢設置、養生シート被覆等が考えられる。
- ・迂回路や道路規制が可能であれば、擁壁再構築や前面に鋼管杭等を併用した土留め壁を構築することが望ましい。
- ・対策工事実施までの措置として、定点の追加設置及び密な観測等の監視体制に重点を置くことが重要である。